

YOLOv8設定マニュアル

Last updated: 2023/06/26 17:36:09

公式HP

Google Colaboratory

この方法が高速

前提

- Googleアカウントをもっていること
- Google Driveを利用していること

実行（物体認識）

- [Google Colaboratory](#)にログイン
- 「ファイル」→「ノートブックを新規作成」
- 「ランタイム」→「ランタイムのタイプを変更」→ハードウェアアクセラレーターを「GPU」にする
- 以下のコードを実行する

```
from google.colab import drive
drive.mount('/content/drive')
%cd ./drive/MyDrive
```

- Google Driveへの接続許可が求められるので、許可する。

```
!git clone https://github.com/ultralytics/ultralytics
%cd ultralytics

!pip install -r requirements.txt

from ultralytics import YOLO
model = YOLO("yolov8x.pt")

results = model("https://ultralytics.com/images/bus.jpg", save=True)
```

- Google Driveのultralytics\runs\detect\predictフォルダの中に実行結果（jpgファイル）が保存される。

Windows11

前提

- Anacondaがインストールされていること

インストール

- 適当なフォルダで、ターミナルを用いて以下を実行

```
conda create -n yolov8 python=3.11
conda activate yolov8
git clone https://github.com/ultralytics/ultralytics
cd ultralytics
pip install -r requirements.txt
```

実行（物体認識）

- ultralyticsのフォルダに、以下のプログラムをtest.pyとして保存する.

```
from ultralytics import YOLO

model = YOLO("yolov8x.pt")

results = model("https://ultralytics.com/images/bus.jpg", save=True,
save_txt=True, save_conf=True)
boxes = results[0].boxes
for box in boxes:
    print(box.data)
print(results[0].names)
```

- test.pyを実行する.
- runs\detectフォルダの中のpredict?フォルダの中に実行結果（jpgファイル）が保存される。?は整数で、実行するごとに増加する.
- predict?/labelsフォルダには認識結果を記録したテキストファイルが生成される。各行に、物体ID, 始点x, 始点y, 終点x, 終点y, 信頼度, が記録されている.
- 認識結果はresults[0].boxes[i].dataにも格納されている.
- 物体IDの一覧はresults[0].namesで得られる.
- modelの第1引数を動画（mp4ファイル）にしても、そのまま解析できる。フレームjの結果はresults[j]に格納される.

実行（骨格推定）

- ultralyticsのフォルダに、以下のプログラムをtest.pyとして保存する.

```
from ultralytics import YOLO

model = YOLO("yolov8x-pose.pt")

results = model("https://ultralytics.com/images/bus.jpg", save=True,
save_txt=True, save_conf=True)
keypoints = results[0].keypoints
```

```
print(keypoints.data)
```

- test.pyを実行する。
- runs\poseフォルダの中のpredict?フォルダの中に実行結果（jpgファイル）が保存される。?は整数で、実行するごとに増加する。
- predict?/labelsフォルダには認識結果を記録したテキストファイルが生成される。各行に、物体ID、始点x、始点y、終点x、終点y、キーポイント1x、キーポイント1y、キーポイント2x、キーポイント2y、..., 信頼度、が記録されている。
- 認識結果はresults[0].keypoints.dataにも格納されている。
- キーポイントの対応関係は以下の通り。

```
"categories": [  
  {  
    "supercategory": "person",  
    "id": 1,  
    "name": "person",  
    "keypoints": [  
      "nose", "left_eye", "right_eye", "left_ear", "right_ear",  
      "left_shoulder", "right_shoulder",  
      "left_elbow", "right_elbow", "left_wrist", "right_wrist",  
      "left_hip", "right_hip",  
      "left_knee", "right_knee", "left_ankle", "right_ankle"  
    ],  
    "skeleton": [  
      [16, 14], [14, 12], [17, 15], [15, 13], [12, 13], [6, 12], [7, 13], [6, 7],  
      [6, 8], [7, 9], [8, 10], [9, 11], [2, 3], [1, 2], [1, 3], [2, 4], [3, 5], [4, 6], [5, 7]  
    ]  
  },  
  ...  
]
```

- modelの第1引数を動画（mp4ファイル）にしても、そのまま解析できる。フレームjの結果はresults[j]に格納される。

GPUの利用

- GPUが利用可能であるかの確認は以下のコードを実行し、Trueであれば利用可能である。

```
import torch  
print(torch.cuda.is_available())
```

- 利用可能でない場合は、以下の手順を行う。
 - GPUの型番を確認する。タスクバーを右クリックし、タスクマネージャを起動し、パフォーマンス→GPUで確認する。GPUがNVIDIA製でなければ利用できない。
 - [ここ](#)からGPUに対応する最新のNVIDIAドライバをダウンロードし、インストールする。

- [ここ](#)からCUDA Toolkit 11.8をダウンロードし、インストールする.
- PytorchのGPU版をインストールする.

```
pip3 install torch==2.0.1 torchvision --extra-index-url  
https://download.pytorch.org/whl/cu118
```

- GPUが利用可能であるか、再確認する.

参考文献

- つくもちブログ, YOLOv8まとめ, <https://tt-tsukumochi.com/archives/6275>
- MS COCO datasetのフォーマットのまとめ, <https://qiita.com/kHz/items/8c06d0cb620f268f4b3e>